

TAC行政書士講座セミナー

担当講師：早川兼紹

行政書士試験へのチャレンジを決断！



Step 1

行政書士試験の仕組みを知り、合格のための目標点を設定しよう！

- ・ 出題科目（法令・一般知識）
- ・ 科目ごとの配点
- ・ 出題形式（五肢択一式・多肢選択式・記述式）
- ・ 合格基準（基準点＋総得点の 60%）
- ・ 合格率（5～10%）、難易度、学習時間
- ・ 目標点の設定



Step 2

行政書士試験で出題される内容を押さえよう！

- ・ 試験全体の出題内容（条文・判例・理論（学説））
- ・ 各科目の特徴・出題内容（条文・判例・理論（学説））の割合



Step 3

どのような学習をすれば効率よく合格点がとれるかを考えよう！

- ・ 学習法総論
- ・ 各科目の関連性
- ・ 各科目の学習方法
- ・ インプットとアウトプットの関係
- ・ 過去問の重要性



Step4

一発合格のための戦略的タイムスケジュールを考えよう！

- ・学習順序についての検討
- ・タイムスケジュールの具体例



Step5

合格のための学習ツールの選択について考えよう！

- ・独学 or 受験指導校
- ・学校選択

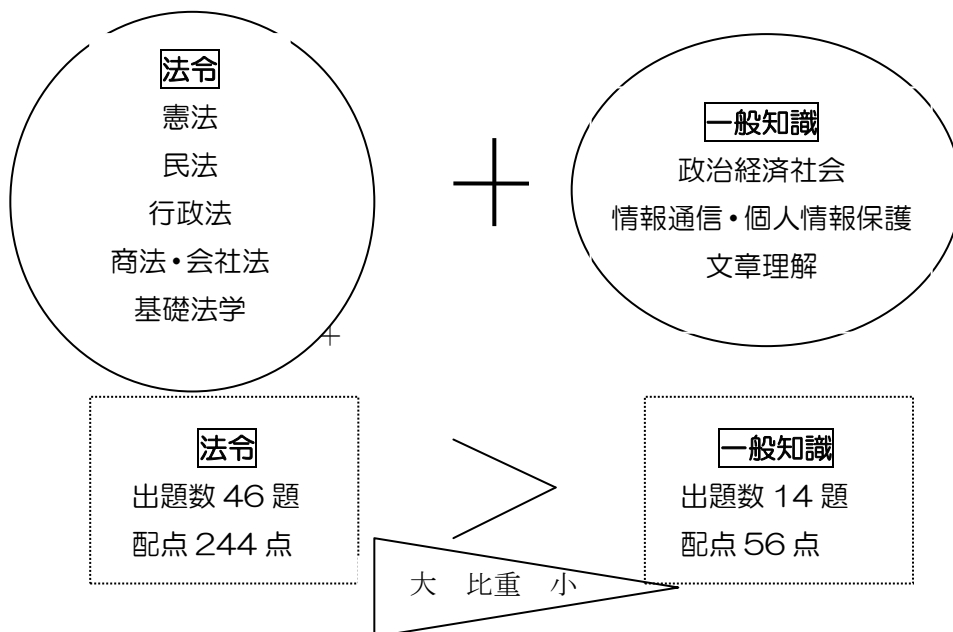


TAC で一緒にがんばりましょう！行政書士試験合格に向けて我々が全面的にバックアップします！

Step1

行政書士試験の仕組みを知り、合格のための目標点を設定しよう！

〔出題科目〕



〔配点表〕

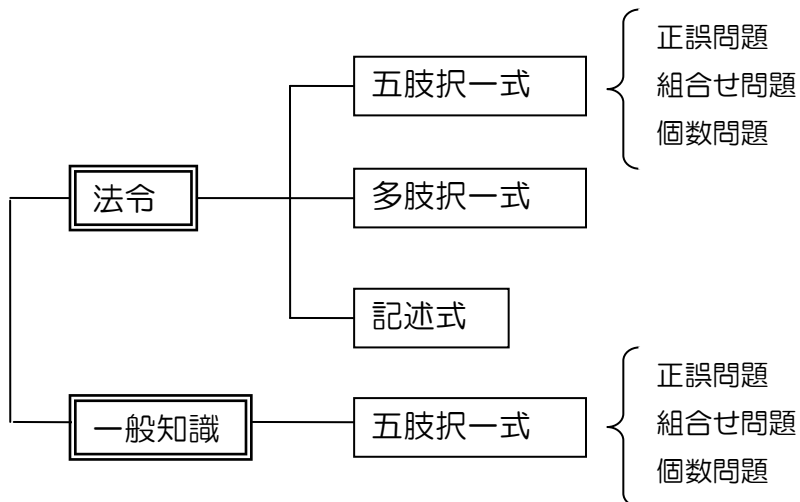
択一式	1問 4点
多肢選択式	1問 8点
記述式	1問 20点

法令	五肢択一	40問 (@4点)	160点	法令計 244点
	多肢選択	3問 (@8点)	24点	
	記述	3問 (@20点)	60点	
一般知識	五肢択一	14問 (@4点)		一般知識計 56点
合計		60問		総計 300点

〔出題形式〕

法令には、①五肢択一式、②多肢選択式、③記述式の3つの形式がある。

一般知識は、①五肢択一式のみの出題で、②多肢選択式や③記述式による出題はない。



①五肢択一式

- 五個の選択肢から1つを選びマークする形式。
- 正しいもの（妥当なもの）又は誤ったもの（妥当でないもの）を1つだけ選ぶ正誤問題、正しいもの（妥当なもの）又は誤ったもの（妥当でないもの）の組合せとなっている選択肢をマークする組合せ問題、正しいもの（妥当なもの）又は誤ったもの（妥当でないもの）の個数を選んでマークする個数問題がある。
- 難易度は、組合せ問題、正誤問題、個数問題の順で高くなる。

②多肢選択式

- ・ 10～20 行ほどの文章の中に空欄が4つあり、20 個の選択肢の中から空欄に当てはまる語句を選んでマークする問題。憲法と行政法から出題されている。

③記述式

- ・ 40 字程度で解答欄に文章を記述する問題。行政法と民法から出題されている。

〔目標点の設定〕

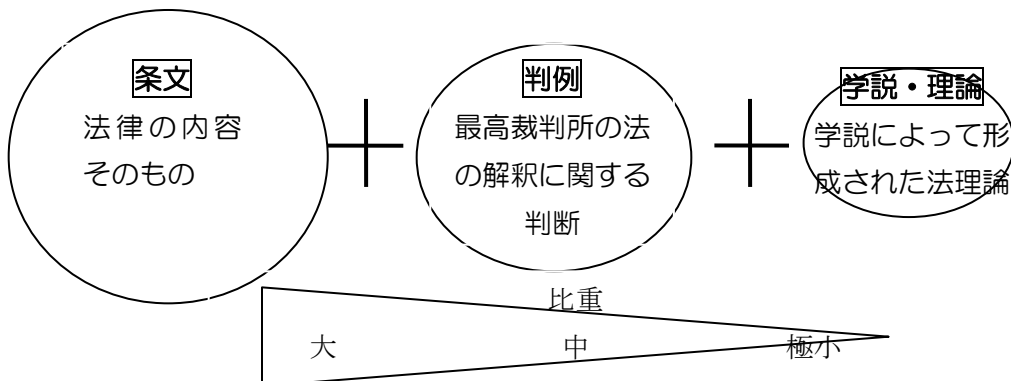
法令	五肢択一	40 問中 ⇒26 問正解	104 点	法令 計 156 点
	多肢選択	3 問 12 空欄中 ⇒10 個正解	20 点	
	記述	3 問 60 点中 ⇒部分点も含めて 32 点獲得	32 点	
一般知識	五肢択一	14 問中 ⇒6 問正解	24 点	一般知識 計 24 点
合計				総計 180 点

Step2

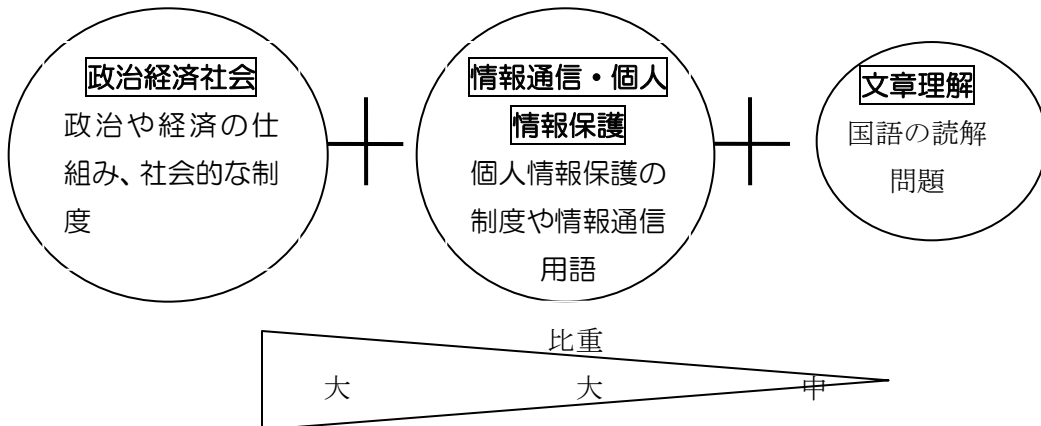
行政書士試験で出題される内容を押さえよう！

〔試験全体の出題内容〕

(法令)



(一般知識)



〔行政書士試験（法令編）の出題内容〕

法令科目の出題内容 ⇒ 条文と判例（条文と判例の出題割合は7：3）

※理論・学説については毎年2、3問出題される程度であるから、行政法理論を除いて特別な対策は必要ない

		条文	判例	理論・学説
憲法	人権	△	◎	△
	統治	◎	△	△
民法		◎	◎	△
行政法	一般的な法理論	×	○	○
	行政手続法	◎	×	×
	行政不服審査法	◎	×	×
	行政事件訴訟法	◎	○	△
	国家賠償法・損失補償	△	◎	△
	地方自治法	◎	×	×
商法・会社法		◎	×	×

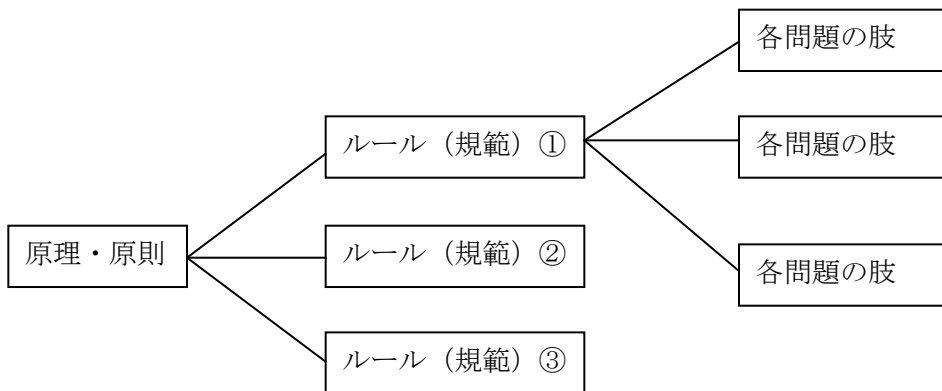
※判例を重視する必要のある科目は限られている（憲法の人権・民法・行政法の一般的な法理論・行政事件訴訟法・国家賠償法）ので、そこは部分的にしっかり判例を押さえ、あとはとにかく条文を徹底して学習していくことが合格への近道である。

Step3

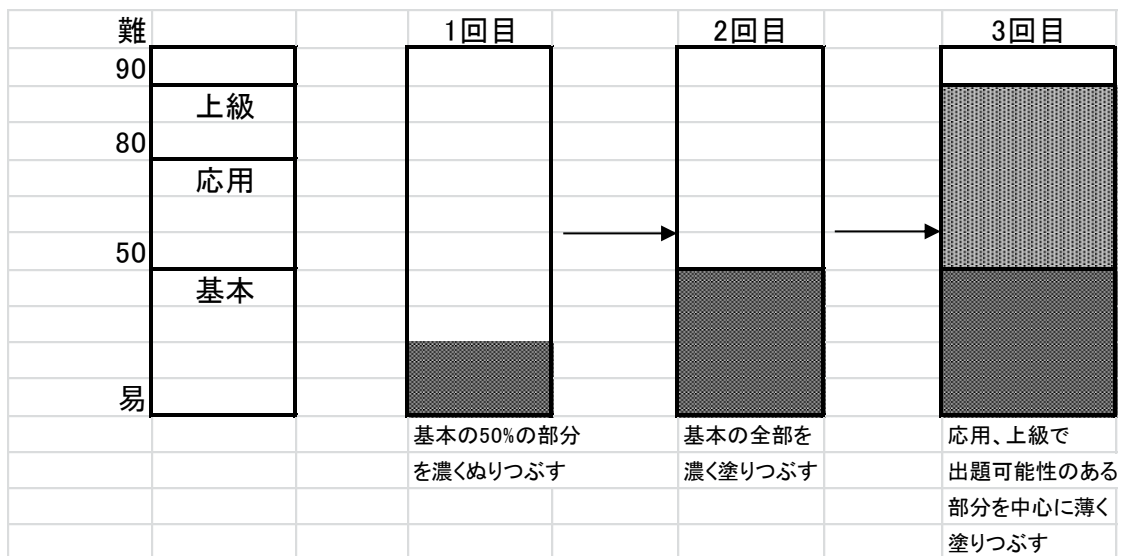
どのような学習をすれば効率よく合格点がとれるかを考えよう！

〔学習法総論〕

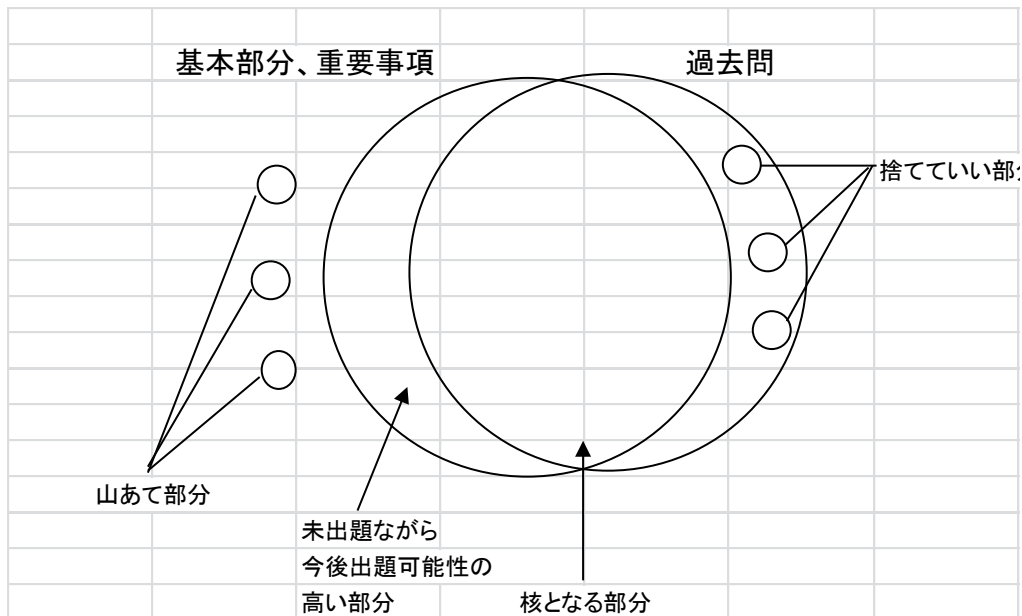
①各法律の原理・原則（価値の体系）を理解し、共通のルール（規範）を押さえることで、個別に覚える事項を減らすことができる。



②まずは最後まで1つの科目を学習してみることで、何度も繰り返すうちに範囲を広げ黒く塗りつぶすイメージをもって学習する。



③過去問は重要だが、今の行政書士試験では過去問だけでは合格点とはとれない。過去問を情報として如何に使いこなすかが重要



〔各科目の学習ポイント（各論）〕

〔行政法の攻略〕

- ①行政手続法・行政不服審査法・行政事件訴訟法・国家賠償法の4法を優先して仕上げていこう。
- ②とにかく条文を丁寧に読み、整理しつつ、覚えていくこと。

〔民法の攻略〕

- ①事例問題に対して対策を怠らない！常に具体的ケースの中で、条文や判例のルールを使えるようにしておくこと。問題演習は必須。

- ②記述対策が必要

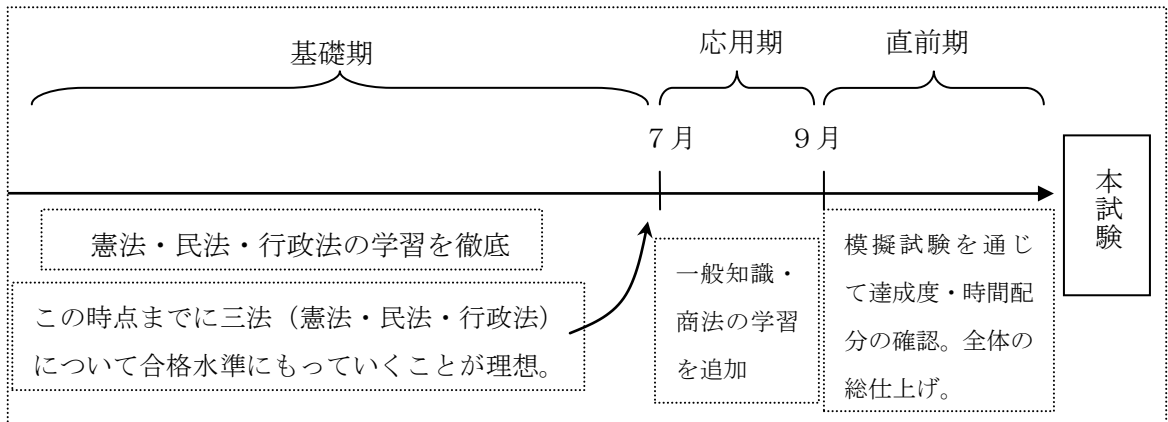
記述対策

- ①記述問題のネタになる条文・判例知識を事前に覚える
- ②記述問題の事例を通して、どの条文・判例知識が聞かれているかを抽出できるように訓練する。

Step4

一発合格のための戦略的タイムスケジュールを考えよう！

【本試験までのスケジュールリング】



【(TAC の利用を前提とした) 学習システムのモデルケース】

〔講義前〕 テキスト該当部分の流し読み（基本的に予習は不要）



〔初回講義〕

- ① 説明を聴く
(疑問点があれば講義後に講師に質問)



〔自宅学習〕

- ① テキストで復習（ランク付け+アンダーライン部分に注意）
② テキストの復習問題で理解度チェック
③ トレーニング（過去問集）で該当の過去問を解く。
(余裕のある者・受験経験者は、アドバンスの該当問題を解く)



〔次回講義〕 ミニテストを受ける。



(以上を各講義回毎に繰り返し)

〔科目別答練〕 科目総まとめのテストで理解度を確認



(以上を各科目毎に行う)

〔実力完成演習〕 各科目の総まとめを行うと共に、解答力を本試験レベルまで引き上げる



〔直前期〕 答練・公開模試などの模擬試験を受験



行政書士試験 (11月10日予定)